

「正確には」という表現の展開

斬 園 元

1 はじめに

現代日本語において「正確には」は、以下の(1)～(4)のように、様々な用法を持つ¹。

- (1) 私が医学部を卒業したのは昭和五十四年三月ですので、すでに二十一年が経過しています。ですから、「なぜ現在の科目を選んだか」と聞かれても正確には答えられないかもしれません。

(加藤丈夫、桑名正隆 2003『医学生のための進路ナビ』)

- (2) だったら、君らは1カ月で少なくとも百枚は配れと。おれが月二百枚なんだからね。正確にはわからないけれど、そういう地道な活動の効果は出てると思うんです。

(2002 山並辰巳、竹森健太郎『プロジェクト H 「福岡 3 点セット」の構造改革』)

- (3) 言われてはじめて、自分がバスローブを着ていたことを思いだした—より正確には、バスローブしか着ていないということを。

(妹尾ゆふ子 2001『チェンジリング 赤の誓約』)

- (4) 「今度相続する財産は、正確にはどれくらいになるの？」と訊いたのは、私の従兄に当る鈴木仁志だった。

(赤川次郎 1984『華麗なる探偵たち ユーモア・ミステリー』)

(1) (2) の「正確には」は後接する動詞（「答える」「わかる」）にかかっている点で同じであるが、(2) は(1) と違い、「自分の主張を控えめ

¹ 1・2 節の用例は「現代日本語書き言葉均衡コーパス」(以下 BCCWJ) から抽出したものである。

にする前置き²」という機能を持つ表現の中で用いられている。(3)の「正確には」は「つまり」のような言い換えに近い。(4)の「正確には」は、特定の一語ではなく「どれくらいになる」という節の全体にかかっている。

一方、「正確には」の部分「正確に言う」という注釈節³に置換できるか否かを見ると、(1)(2)の「正確には」は置き換えられないが、(3)(4)は置き換えられる。加えて、(3)のような「正確には」は「正確に」に置き換えられないが、(1)(2)は置き換えられる。(4)のような「正確には」は文脈によって置き換えの許容度が変わる。

【置換①：「正確には」→「正確に言う」と】

- (1') *ですから、「なぜ現在の科目を選んだか」と聞かれても正確に言うと答えられないかもしれません。
- (2') *正確に言うとわからないけれど、そういう地道な活動の効果は出てると思うんです。
- (3') 言われてはじめて、自分がバスローブを着ていたことを思いだした一より正確に言うと、バスローブしか着ていないということ。
- (4') 「今度相続する財産は、正確に言うとどれくらいになるの?」

【置換②：「正確には」→「正確に」】

- (1'') ですから、「なぜ現在の科目を選んだか」と聞かれても正確に答えられないかもしれません。
- (2'') 正確にわからないけれど、そういう地道な活動の効果は出てると思うんです。
- (3'') * 言われてはじめて、自分がバスローブを着ていたことを思いだした一より正確に、バスローブしか着ていないということ。
- (4'') 「今度相続する財産は、正確にどれくらいになるの?」

² 前置きは、聞き手への配慮により、自分の言語内容を導入するためメタの言語表現である。前置き表現を後述する注釈表現の一部分と捉える研究(杉戸1983,1989等)と、注釈表現から区別して前置き表現を取り上げる研究(大塚1999,陳2007等)がある。

³ 注釈節は、話し手が、聞き手との関係に配慮した上で、自分の言語行動の要素へメタ的に言及する機能を持つ節を指す。これについて、杉戸の一連の研究

(1983,1989,1994,1996等)や才田他(1984)、亀田(1997,2000,2003)、江村(2001)、戸澤(2015)等に指摘がある。本稿では、「前置き表現」と「注釈表現」について深く立ち入って検討しないため、「～言えば」等の条件節を伴う表現を「注釈節」に、「が・けど」等の逆接を表す接続助詞を伴う用言を「前置き」に分類する、というように形で区別して扱う。この辺りについての検討は別稿に譲る。

このように、現代語における「正確には」という形式は、情態副詞「正確に」にはない機能を持っているように思われる⁴。ところが、筆者が調べたところでは、「正確には」という形が現れたのは概ね大正期に入ってからである。初期の例を見てみると、現代語の(3)(4)のような用法が見当たらず、(1)(2)（「正確に」と置換できる例）と同様の用例がほとんどである。

(5) 昨年間に於ける獨逸國の自殺者は、正確には知り難きも、八千人以下なること莫し、而して自殺男女の割合は、女子一人と男子三人となり。
(太陽 1901「世界紀聞」)

(6) 僕の頭も手ももう正確には動いてくれないのだから。

(太陽・武者小路実篤 1917「A と B」)

このことから、「正確には」が持つ用法はすべて同じ時期に現れたのではなく、次第に拡張されてきたと推測される。そこで、本稿では、「正確には」という表現を対象として、コーパス調査に基づき、この表現の発達の経緯を事例に即してたどることにより、用法拡張の実態を探る。

まず 2 節で現代語における「正確に」と「正確には」の用法を整理することで、歴史的考察の際に着目すべき点を示す。そして、3 節で近代における「正確に」「正確には」の調査結果を示し、「正確には」の用法拡張を記述する。4 節では用法拡張要因について検討する。最後に 5 節で本稿の考察をまとめ、今後の課題について述べる。

⁴ 同様の漢語表現として、次の用例も見られる。

(イ) スジヨノをジョノと呼んだり、極端にはノだけに省略されてしまうこともある。
相手を軽く見るほど、親しみを込めるほど省略が多くなる。
(三平則夫 1994『第三世界の姓名』)

(ロ) スリッポン厳密にはひもや調節具をいっさい持たないフラットヒールの靴をいいますが、今日ではゴア（ゴム糸を織り込んだ伸縮性のある生地）やベルトを用いても、単に足を滑り込ませるだけではけるスタイルの靴を総称しています。

(日本靴総合研究会 1995『合わない靴はからだに悪い』)

(ハ) 「氏」と「さん」については、親しみ感が、さん) 氏。尊敬感は、氏) さん。という雰囲気(慣習)はあるのですが、単純には、公式な呼び方が「氏」であるということで、「さん」はくだけた敬称として使い分けられていると思います。

(2005・Yahoo!知恵袋)

2 現代語における用法分類

管見の限り、「正確」という語を対象とする考察は見当たらない⁵。「正確には」の史の変遷を見る前に、議論の前提として、現代語における用法を整理しておきたい。BCCWJの短単位検索で「正確」を検索し、4981例を抽出した。これらの用例を後接要素の活用によって整理し、結果を次の表1に示す。

表1に整理した形式のうち、以下では「正確に」「正確には」を取り上げる。2.1節では「正確に」、2.2節で「正確には」についてそれぞれの用法を整理する。

表1 BCCWJにおける「正確」の用例

レジスター	横小計	連体形		連用形			終止形		名詞用法	複合語
		な	なる	に	には	で	だ	になる	の・を・にして等	
出版・書籍	1668	451		716	182	23	109	11	17	159
図書館・書籍	1704	467		690	209	28	139	2	11	158
出版・新聞	30	14		9		1	1			5
出版・雑誌	176	60		64	28	2	10		3	9
特定目的・ブログ	260	50	1	84	75	7	22		2	19
特定目的・ベストセラ	165	37		73	19	4	14	1	4	13
特定目的・白書	119	56		43	2	2	1	1	4	10
特定目的・法律	11	2		4					1	4
特定目的・広報誌	57	22		27		3	1		1	3
特定目的・国会会議録	310	97		114	25	1	27	3	9	34
特定目的・教科書	79	25		41	5	3	4			1
特定目的・讀文	6			5						1
特定目的・知恵袋	396	115		105	104	3	42	3	5	19
縦小計	4981	1396	1	1975	649	77	370	21	57	435

2.1 「正確に」

表1に示したように、「正確」の4981例のうち、「正確に」の用例は1975例(約40%)ある。整理した結果を次の表2に示す。「正確に」の用例を、まず形式的特徴から「動詞にかかる用法」「副詞成分にかかる用法」「節にかかる用法」の三種類に分ける。次に、機能の面を考えて、「動詞にかかる

⁵ この語を対象とした研究はないが、「明らかに」(永澤 2007)「どうも」(川瀬 2014)「どうぞ」(川瀬 2015)「ほんに」(市村 2014)といった語を対象に、副詞の用法の変遷を考察した研究が多く存する。他に、漢語副詞の研究としては鳴海(2015)などがある。本稿の手法はこれらの先行研究に従うところが大きい。

用法」のうち、特に「正確に言う」と「正確に言えば」といった「正確に」を含む条件節を「注釈用法」に、「正確に把握していないが」「正確に言えないが」といった「正確に」を含む譲歩節を「前置き用法」として差別化する⁶。また、「正確に」の構文的特徴を観察するため、「正確に」の出現位置（文頭⁷/文中）についても集計する。さらに、冒頭に述べたように、「正確には」は用法によって「正確に」および注釈節との置換可能性が異なるため、これについて、「正確に」との置換を置換①、注釈節との置換を置換②とする。置き換えると統語的に不成立になる場合は×、統語的には成立するが意味が変わる場合は△、ほぼ同義の場合は○と記す。以下、それぞれの用法を見ていく。

表2 「正確に」の用法

	動詞にかかる用法			副詞成分にかかる用法	節にかかる用法
	注釈用法	前置き用法			
用例数	1601	299	8	50	17
割合	81.06%	15.14%	0.41%	2.53%	0.86%
用例番号	(7)～(10)	(11)～(14)	(15)～(16)	(17)～(20)	(21)～(26)
出現位置 (文頭/文中)	86/1515	221/78	0/8	7/43	3/14
置換①	×	-	△	△	○
置換②	×	×	○	△	○

2.1.1 「動詞にかかる用法」

まず、「注釈用法」と「前置き用法」を除く「動詞にかかる用法」について、次の(7)～(10)の「正確に」のように動詞を修飾する副詞として使われるのが「正確に」の最も一般的な用法である。この類の用例は、「正確に」を「正確に言う」と等の注釈節や「正確には」に言い換えることができない。このとき、「正確に」は文頭より文中に現れることが多い。

⁶ 動詞と副詞成分のほか、「等しい」「同様」という形容詞・形容動詞が「正確に」のかわりに先に来る用例が、「青空文庫」に見られる。しかし、それらの例の出典は全部1948年出版の『経済学および課税の諸原理』（デイヴィッドリカード著・吉田秀夫訳）という翻訳作品で、「正確に等しい」「正確に同様」以外の二つの語以外の用例がないため、かなり限られたケースだと考える。そのため、形容詞・形容動詞にかかる用法をグループAの低位分類として立てないことにする。

⁷ 「より正確に(は)」「しかし正確に(は)」のような「正確に(は)」の前に副詞や接続詞が現れる場合も文頭に数える。

(7) 淀殿は本来良質な頭脳をもっているのであろう。しかし人間、賢明さというものをうみだすのは頭脳であるよりもむしろ意識であった。淀殿の意識では、世の中のどのようなものも正確にとらえることができない。

(司馬遼太郎 2002『城塞』上巻)

(8) 本章ではまず日本の主要製造業がおかれている立場を正確に把握するため、個別十七業種について、現在の国際環境の変化とそれが与える国内立地（海外移転）への影響について述べたい。

(竹森祐樹 2003『日本製造業復活の戦略 メイド・イン・チャイナとの競争と共存』)

(9) 学問の世界で論じられることならば、ありのままに出版して、正確に批判を受けることが当然のことではありませんか。

(鳥飼慶陽 1988『賀川豊彦と現代』)

(10) 金髪はひとりの股間を蹴り上げ、もうひとり空いている手で拳をつくって正確にこめかみを殴りつけた。

(菅沼理恵 2005『しろがねの追憶 星宿姫伝』)

(9) (10) では「正確に」と修飾される動詞とが離れているものの、「正確に」が後の動詞を意味的に限定する (7) (8) と同じく、いわゆる情態副詞⁸的な働きを持つ。この場合、「正確に」と後接する動詞の間に修飾関係が成立している⁹。

次に、(11) ~ (14) のような「正確」を含む条件節¹⁰の例が注釈用法の例である。「正確には」と置き換えることができる。つまり、「正確に」を含む注釈節全体が「正確には」とは同価である。

(11) オウムやインコはなぜあんなに色がカラフルなんですか？ 正確にいうと、オウムと呼ばれるものはベースは白が多く、インコは色彩が鮮やかだったり何色もの色だったりしますね。 (2005・Yahoo!知恵袋)

⁸ 山田 (1908) の「語の副詞」の三分類「情態副詞」「程度副詞」「陳述副詞」に基づく。

⁹ 他に、「現行本が「ハワイの真珠湾を奇襲攻撃」としているのに、「海軍基地」をつけ足したのは、より詳しく正確にと考えた執筆者の善意からだろうが、かえって間違いを犯してしまった。(秦郁彦 2005『現代史の対決』)「還付金の受取場所(振込口座)の記載は正確にお願いします。(埼玉県所沢市出版 2008『広報ところざわ』)」等、後の動詞が省略されている用例もある。これらの文にそれぞれ「書く」等の動詞を補えば、(7) ~ (12) と同様な意味になるため、これらも動詞にかかる用法だと考える。

¹⁰ このような条件節において「正確に」と共起する動詞には、「言う」「言える」「申す」の他に、「表現する」「判断する」といった動詞もある。

- (12) 懐疑論者の懐疑は、いかに徹底化されようとも「疾走してくる馬車」という信憑を抹殺しきることはできない。だからパークリーは、道路に走りでありはしないのである。正確に言えば、懐疑論者の懐疑は原理的に不徹底であらざるをえない。(笠井潔 2002『探偵小説論序説』)
- (13) 半年後の夏、一ヶ月の時間を取りまして、ようやく出かけて行ったのがカナダ、アラスカを流れるユーコン川でございます。正確に申しあげるならば、そのユーコン川の上流部にある支流、テスリンリバーにわれわれは出かけて行ったのでございました。(夢枕獏 2002『空気枕ぶく先生太平記』)
- (14) まず彼は、第一段階として、愛とは本質的に排他的なものであると主張する。私の愛は貴重なものであり、それをあちこちでまきちらしてはいけない。より正確に言うなら、それは、まきちらされないかぎりにおいて貴重なものである—もし私があらゆる人を愛したなら、私の愛は全く価値のないものになるだろう。(富樫剛訳・アレンカ・ジュパンチッチ著 2003『リアルの倫理 カントとラカン』)

最後に、(15) (16) のような「正確」を含む譲歩節の例は「前置き用法」の例である。「注釈用法」と同様の理由により、「動詞にかかる用法」から区別して扱う。これらの例は「正確に」を含む注釈節に置換できるが、「正確には」に置き換えると少し意味が変わる。また、8 例とも「正確に」は文中に現れる。

- (15) その下でどういうふうの下請をしているかというその数字については、正確に把握しておりませんが、いま六十六社が直接国鉄の工事を受けているというのが実態でございます。(1977 国会会議録第 80 回国会)
- (16) ちょうどそのときに中曽根補佐官が首相と話をしていたところまでというところまでは事実でございますが、その後は全く、漫画というか、正確に覚えておりませんが、補佐官が来て、こうなったよと言ったら、そうですか、今首相に会ってきたばかりだけれどもということで、それ以外のことはございません。(2000 国会会議録第 150 回国会)

2.1.2 副詞成分にかかる用法

次の(17)～(20)における「正確に」は、述語動詞にかかるというより、「二十一分」「九時」等の副詞成分にかかると理解した方が適切である。この類の用例では、「正確に」を「正確に言う」と等の注釈節または「正確には」に言い換えると、統語的に文が成立するものの、意味が変わる。また、1例を除き文中にしか現れない。

(17) 車が止まり、ヒラリーが降りて、自分のミニバスに駆け込む。ジャーナリストと一緒にの移動は、正確に二十一分続くはずだった。

(クリスチーナ・オックラン著・鳥取絹子訳 2003『ヒラリーという生き方 女性が夢を実現する方法』)

(18) その商の古都の跡・殷墟と、茨城県稲敷郡の福田貝塚とは、共にぴったり北緯三十六度線上にあるが、その正確な東西線上の二点の距離が、正確に二千二百キロメートルある。(2008・Yahoo!ブログ)

(19) 用意を終えた頃、きっちり正確に九時、軽やかな音を立てて入り口の鈴が鳴った。(かわい有美子 2001『水に映った月』)

(20) ぼくたちの目には正確に同じ長さに写っていても、その事実を無視して、脳がそんなぐあいにかかってに判断してしまうんだね。

(岡島康治 1999『おぼけは本当にいるの？ふしぎ調査隊研究レポート』)

(17)～(20)では、「正確に」は「続く」「ある」「鳴る」にかかるというより、むしろ「二十一分」「二千二百キロメートル」「九時」との意味関係が緊密である。選択制限(＝言葉の組み合わせ)から考えると、「正確に続く」「正確にある」「正確に鳴る」を理解するには、「正確に記入する」「正確に伝える」といった表現に比べて、特定の文脈への依存度が高い。(20)の「正確に写る」の場合、選択制限上は問題ないが、文脈から推測するに、「僕たちの目に一つの間違いもなく正しく写っている」ではなく、「ぴったり同じ長さであることが僕たちの目に写っている」と解釈すべきである。やはりこの「正確に」と「写る」は、解釈において文脈を必要とする緩やかな修飾関係をなしている。「動詞にかかる用法」に比べれば、「正確に」とそのかかり先の間の修飾関係が緩やかであると言えよう。

2.1.3 節にかかる用法

この類の用例は、「正確に」を「正確に言うと」等の注釈節および「正確には」に置換することが可能である。文における出現位置は「動詞にかかる用法」および「副詞二かかる用法」と同様に文中の方が多い。

(21)～(23)は、「(～は) 正確に～(だ)」という形¹¹で、「正確に」が後接する名詞述語にかかる用例である。

(21) トモ 「公転周期が、日数で表現すると三百六十五．二四二二．．．なんだっけ？小数の部分を4でかけるとほぼ1になるから、4年に一度、1日を増やすことで調節している。」

かたる 「それが、うるう年ですね。」

トモ 「うん。でも、正確に0.25じゃないから、それでもずれが出てくる。だから西暦で百の倍数、かつ四百で割り切れない年にはうるう年を設けないことでずれを修正する。」

(2008・Yahoo!ブログ)

(22) サスペンダー氏はすぐに立ち止まり、私の方を向いた。「はい？」「アンディが『タイムズ』に電話を入れたのは、正確にいつなのよ？」「昨日だと思いますよ」

(ローラ・レバイン著・石塚あおい訳 2005『このペン貸します ジェイン・オースティンの事件簿』)

(23) 一方、私と松井が計画を知ったのは、正確に十月二十日深夜のことである。十月十九日午前八時半、私たち五人は甲府駅で野村久志と合流した。
(高村薫 2003『マークスの山』下)

また、次の(24)では「正確に」の後に二つの動詞が現れるため、「正確に」が修飾する語は明確でなく、文解釈が二通りありうる(このような文は全部で8例ある)。一方、(25) (26)は「正確に」の後に名詞節と動詞両方あるが、「は」を隔ている「正確に～は～ない」という形であり、文の解釈は一つだけになる。

¹¹ 「正確には～のか」といったノダ文やカ疑問文もこの類に属すると考える。

(24) しかし、それでは実際に、連邦議会における議員の投票に対して、地元有権者たちが正確にどの程度の影響を及ぼしているのかを測定するのは困難である。 (藤本一美 1994『<講座>現代の政治学』2巻)

(25) 遠い遠い子供の日に、こんな夕暮の中に立ちつくして自分はいついどこから来たのだろう、と思ったことがあった気がしたが、それが正確にいつどこでのことだったかは思い出せない。
(須賀敦子 2001『本に読まれて』)

(26) 『アラビアン・ナイト』の全訳にバートンが取りかかったのは正確にいつであるかは分からない。しかし、序文で述べているように、かなり早い時期にこの作品に関心を持ち、翻訳を考えていたようである。
(藤野幸雄 1986『探検家リチャード・バートン』)

(24) は、「正確に」とその修飾先が離れていることもあり、二通りの解釈が有り得るである。まず、「正確に」は後の「測定する」にかかって「正確に測定するのは困難である」という解釈がありうる。また、「正確に」が「どの程度の影響を及ぼしている」にかかると見ると、「及ぼしている正確な程度はどうか、を測定することは困難である」という解釈ができる。しかし、(24) を、注釈節または「正確には」に置換すると、「<正確に言えば／正確にはどの程度影響を及ぼしているのか>を測定するのが困難」という解釈に絞られる。

2.2 「正確には」

表1に示したように、「正確」の4981例のうち、「正確には」の用例は649例(約10%)ある。整理の結果を次の表3に示す。まず形式的特徴から「動詞にかかる用法」と「節にかかる用法」に分ける¹²。上述したように、「正確には」は注釈節相当の機能を持つため、「正確には」を含む注釈節は存在しない。が、「正確には」のまま注釈表現になるため、「注釈用法」は持つと考える。他にも機能面からは、「動詞にかかる用法」のうち、「正確には～ないが」という否定形を含む譲歩節が「前置き用法」という下位分類とする。一方、「節にかかる用法」のうち、「いや」「～というより」といっ

¹² 動詞と副詞成分のほか、「等しい」「同じ」「同様」という形容詞・形容動詞が「正確に」のかけ先に来る用例も見られるが、収集した用例のうち、以上の三つの語以外の用例がなかったため、かなり限られた語にしかない用法だと考え、一つのカテゴリーとして立てないことにする。

た前の内容を取り消す表現と共起し、二文の間に使われる例が特徴的であるため、仮に「言い直し用法」と名付けて「節にかかる用法」から区別して扱う。また、注釈節および「正確に」との置換可能か否かについて、それぞれ「置換①」と「置換②」の欄に示す。

表3 「正確には」の用法

	動詞にかかる用法		注釈 用法	節にかかる用法	
	前置き用法				言い直し用法
用例数	57	47	その まま	95	450
割合	8.78%	7.24%		14.64%	69.34%
用例番号	(27) ~ (29)	(30) ~ (32)		(33) ~ (35)	(36) ~ (39)
出現位置 (文頭/文中)	4/53	14/33		18/77	335/115
置換①	△/×	△/×		○	○
置換②	○	○		×?	×?

2.2.1 動詞にかかる用法

まず、「前置き用法」を除く「動詞にかかる用法」の例について、次の(27)～(29)のような例は、注釈節に置き換えると意味が変わる。また、(28)のように「正確には」に後節する「答える」「言える」は、注釈節における述語動詞「いう」といった発言系の動詞と、意味的な衝突を起こすため、注釈節には置き換えられない。一方、「正確に」に置き換えてもほぼ同義を保つ。また、いずれの「正確には」も否定形式と呼応している点が特徴的である。冒頭にあげた(1)もこのグループに含まれる。

(27) したがって各部落には、開拓に関心をもつ村人が集まって待機していたし、両方の幹部たちは最初の地点に互いに集合した。調査団は何人だったか正確にはおぼえていない。県開拓課と地方事務所の職員が主で四人だったように思う。私は一行の先頭に立って案内した。

(中野清見 1989『回想・わが江刈村の農地解放』)

(28) ちょっとただいま自殺者の表を持っておりませんので、正確にはお答えできませんので、後で資料をお届けいたします。

(国会会議録 1984 第 101 回国会)

(29) 最近は倍率の高いものもありますから、満期前に死亡するとかなりの額になることもあり、また一人で数件加入している場合も考えると正確にはつかめないわけです。

(真山舞子 1991『お父さんは死んではいけない』)

次に、同じく動詞にかかっているが、「正確には+動詞¹³否定形+ガ・ケド」という形を持つ例がある。これらは「正確に言う」と等に置き換えると意味が変わるが、「正確に」には置き換えても意味が変わらない。(32)の「言える」は、注釈節における述語動詞とは、意味的衝突を起こすため、注釈節には置き換えられない。冒頭にあげた(2)もこのグループに含まれ、「自分の主張を控えめにする前置き」という機能を持つ。機能に異なりがあるため、「動詞にかかる用法」の中でも特に、(30)～(32)のような例を「前置き用法」として扱う。

(30) 今のところラサの町はそれほど大きくはない。住民が何人いるのか正確にはわからないが、おそらく二万五千人から三万人くらいであろう。

(ジュゼッペ・トゥッチ著・杉浦満訳 1992『チベット仏教探検誌 G.トゥッチのヤルルン紀行』)

(31) 押井さんは、そういう外部装置が好きなのかな。正確には憶えていないけど、「攻殻」にこういうセリフがありましたよね。人間と動物の決定的な違いは記憶だろうと。

(原田康久、押井守、鈴木敏夫 2004『イノセンス創作ノート 人形・建築・身体の旅+対談』)

(32) しかし、けっきょく、それはモノクロのフィルムをつかって、人間の見える範囲におきかえることですから、昆虫がみている世界と正確にはいえませんが、それに近いといってもいいでしょう。

(矢島稔 2001『チョウとガのふしぎな世界』)

2.2.2 節にかかる用法

この類は「正確に言う」と等の注釈節に置換できるが、「正確に」に置き換えると許容度が下がる。後述する「言い直し用法」と違い、この用法の「正確には」は二文の間ではなく一文の中で役割を果たしている。これらの「正

¹³ 「わかる」「覚える」といった知覚動詞および「言う」が多い。

確には」の用法は「正確に」の「節にかかる用法」とほぼ対応しているが、2.1.3の(24)で見たような曖昧さはない。これは、助詞「は」の持つ働きによるものだろう。冒頭にあげた(4)もこのグループに含まれる。

- (33) 話題は友情の政治であったわけですが、あなたがこうしたセミナーで追求しておられる論の進め方によって許され、正当と認められる（これらはいい言葉ではないのかもしれませんが、とにかくそういう言葉を使うことにします）政治とは、正確にはどのような政治なのでしょうか。あるいは別の言い方をすれば、どのような種類の政治行動が脱構築によって正当と認められ、必要とされるのでしょうか。

（ジャック・デリダ&マイケル・スプリンカー著・仲正昌樹訳 2000『アルチュセールを読む』）

- (34) 内閣総理大臣が誕生する瞬間とは、正確には一体いつなのだろうか。形式的には憲法の規定により、皇居で天皇が首相を任命した時になるが、実際は衆参両院本会議で国会議員の記名投票により首相指名選挙が行われ、議長がその結果を受けて首相の選任を宣告した時とされている。

（大須賀瑞夫 1995『首相官邸 今昔物語』）

- (35) 「やれるもんならやってみろ。いまのオレは心身ともに充実しきっている。中途ハンパなやり方ではオレに勝てんし、全力を出せば否が応でもルルーを巻きこむことになるぞ」心身ともに充実しきっているというのは、正確には間違っていた。魔導エネルギーが充実しているのは事実だが、しかしそれは、シェゾが望んで手に入れたものではない。

（山本剛 1997『新・魔導物語』）

また、(36)～(39)は、「正確には」を使って、前の言い方をより精密な表現に言い直すことが特徴的であるため、「言い直し用法」と呼ぶ。この場合、「正確には」の意味の働く範囲は、一文の中から二文の間まで拡大されているように思われる。一文の中で使われるのか、二文間で使われるのかという区別の存在を裏付ける特徴として、前者の「正確には」が文中に現れる率（文頭/文中=18/77）が高いのに対し、後者は文頭に現れる率（文頭/文中=335/115）が高い。

また、後者の「正確には」はしばしば「いや」「～というより」といった、それまでの内容を取り消す表現と共起する。これらは冒頭にあげた(3)と同類であり、現代語における「正確には」の大半（約七割）を占める中心的な用法である。

- (36) 二人の位置が問題だ。ティテュスは右端で、ベレニスは左端といった具合に二人を舞台の両端の袖幕のところに立たせる。正確には袖幕というよりは、そのためにわざわざ垂らしたと思われる、本当の袖幕よりはやや無台中央に垂れた幕だが。(風間研 1987『パリの芝居小屋から』)
- (37) なにしろ、ああいう熱烈な愛読者がいるのだもの。そこへ行くと自分にはなにがあるのだろう。たしかにこの古橋健二にも愛読者はいる。いや正確には、かつてひとりいた。(井上ひさし 1981『吉里吉里人』)
- (38) このように、ウランより原子番号の大きい元素は地上には存在しない(正確には、地上では見つかっていない)。しかし加速器を使った融合反応によって、より重い原子核が作られていった。(2002 谷畑勇夫『宇宙核物理学入門 元素に刻まれたビッグバンの証拠』)
- (39) 「もしもし？」受話器の向こうから聞こえてきたのは滑らかな女声の中国語であった—いや、正確には、中国語みたいだな、と感じただけであり、何をどう喋っているのかはわからなかったものの、何かを問いかけているらしい尻上がりの抑揚だけがかるうじて聞き取れていた。(岡崎祥久 2001『すばる』23 巻 7号)

2.3 まとめ

以上の内容をまとめて、現代語の「正確に」と「正確には」の各用法を整理し、表 4 に示す。

表 4 「正確に」「正確には」の用法

		正確に	用例番号	正確には	用例番号
動詞にかか る用法	注釈用法	あり	(7) ~ (10)	あり	(27) ~ (29)
	前置き用法	あり	(11) ~ (14)	そのまま	
副詞成分にかか る用法		あり	(15) (16)	あり	(30) ~ (32)
副詞成分にかか る用法		あり	(17) ~ (20)	なし	
節にかか る用法		あり	(21) ~ (26)	あり	(33) ~ (35)
	言い直し用法	なし		あり	(36) ~ (39)

以上のように、現代語の「正確には」が、「正確に」と異なる点として次の三点が挙げられる。

- ① 「正確に」も注釈用法を持つが、「正確には」は形式がそのまま注釈表現になる。
- ② 副詞成分にかかる用法がない。
- ③ 「正確には」の中心的な用法は言い直し用法であるが、「正確に」にはない。

「正確に」と「正確には」のそれぞれの特徴を繰り返し述べると、まず、「正確に」の特徴として、まず、かかり先との修飾関係には緊密なものから緩やかなものまでの幅がある点が挙げられる。かかり先との修飾関係が緩やかである場合、「正確に」がどこにかかるかははっきりと言えないケースが生じる。そこで、助詞「は」を入れれば意味的曖昧性が避けられる。このことが、「正確には」の登場に関わっている可能性がある。

次に、「正確には」の特徴として、「正確に」にほとんど例がない、二文の間に現れる「言い直し」が中心的な用法となっている。二つの文の間で使われることは、「正確には」が接続詞的な働きを持ち始めることを意味する。これに関して「正確には」が「正確に」を含む注釈節に相当する機能を持つことにも注目したい。

本節ではまず「正確に」および「正確には」が現代語において持つ用法を整理した。これら「正確には」の様々な用法はいかに展開してきたのだろうか。この疑問を解決するため、これらの用法の拡張関係、特に「正確には」に見られる「正確に」と異なる機能はどのように現れてきたのかを史的観点から分析する必要があると考える。史の変遷を考察するにあたって、特に次の二点に注目したい。

- i 各用法の初出はいつなのか。
- ii 各用法の成立に際して、先行する用法からどのような統語および構文環境の影響を受けたのか。

以下では、「正確に」「正確には」のそれぞれの用法がいつからどのように発生したかについて通時的に調査し、分析を行う。

3 歴史的変遷

『日本国語大辞典』第二版「正確」の項の用例のうち最も古いものは、1875年（明治初期）の『文明論之概略』である。

(40) 「今の同権論は其所論或は正確なるが如くなるも」

（福沢諭吉 1875『文明論之概略』）

さらに、「正確」の初出を確かめるために、明治初期から中期までの用例を収録している「明六雑誌コーパス」（＝明六）、「国民之友コーパス」、『学問ノススメ 本文と索引』および青空文庫にある公開中の福沢諭吉の作品¹⁴を調査した。その結果、「正確」の最も古い用例は(41)に示す連体修飾語として用いられた例であり、連用形「正確に」の形の用例は見当たらなかった。¹⁵

¹⁴ (40)の例は福沢諭吉の著書からのものであるため、その時期の用例コーパスを調べることと、青空文庫に公開中の同じく諭吉の著（訳）者である作品（1866「アメリカ独立宣言」、1899「女大学評論」、1876「学者安心論」、1883「学問の独立」、1889「文明教育論」、1893「人生の楽事」等）を調べる必要もあると考えた。

¹⁵ 明治期以前の用例の調査にあたっては、以下の三資料を利用した。調査の結果、「正確」の用例と見られる例は得られなかった。

① 東京大学史料編纂所データベース

東京大学史料編纂所ホームページに公開されている「古記録フルテキストデータベース」「古文書フルテキストデータベース」「奈良時代古文書フルテキストデータベース」「平安遺文フルテキストデータベース」「鎌倉遺文フルテキストデータベース」を用いて検索したが、用例が見当たらなかった。

② 大正新修大蔵経テキストデータベース（2012年版）

6例見つかったが、そのうち「正確」の例と認めるのは次の形容動詞の1例のみで、他は「～真正、確然不可改」「～堅正、確乎不拔」など熟語「正確」ではない用例である。なお、出典の『大慧普覺禪師語』は中国の書籍で、宋朝臨濟宗の代表的禅僧、大慧宗杲（1089-1163）の語録である。

「毎及時事、愛君憂時。見之詞氣。其論甚正確。晚自徑山來秣陵。」（大慧普覺禪師語・卷47・0837頁上・25行）

③ 「日本語歴史コーパス」

「日本語歴史コーパス 平安時代編」（約74万語）と「室町時代編・狂言」（約24万語）、および「江戸時代編」（「洒落本コーパス」（3資料）、「人情本コーパス」（1資料））のみまわり試作版、2007年に公開された「人情本」パッケージ ver1.0を使用して「正確」の用例を検索したが、「正確」の用例は見つからなかった。一方、「正確」という語は漢籍（台湾の中央研究院漢籍電子文庫）に用例があるため、中国北宋（960～1127年）以降に現れた漢語である可能性がある。また、「正確」を調べるには、異体字および別表記である「精確」なども検索対象とすべきである。今回はそこまで及ばなかったが今後検討したい。

(41) 此一事に關する公法中の眞理を證するには右に引用せる證據の外更に是より正確なるものあるべからず。

(明六：柴田昌吉・ヒリモア原著 1874「『ヒリモア』万国公法の内宗教を論ずる章(撮要)」文語)¹⁶

この例は(40)とわずか一年の差があるだけで、当時の資料をさらに検討しなければ正確な初出の時期を割り出すことはできないが、概ねこの時期に「正確」の語が現れたと言えよう。この語は明治期に現れたものの、現れた初期にはほかの例が見当たらないため、具体的な使用の実態は明治後期に絞って調査するべきだと考える。

「正確」の通時的変遷を調べるに当たって、「太陽コーパス」(＝太陽)、「近代女性雑誌コーパス」、「CD-ROM版 国定読本用語総覧」、「CD-ROM版 新潮文庫 明治の文豪」、「CD-ROM版 新潮文庫 大正の文豪」、「CD-ROM版 新潮文庫の100冊」、「青空文庫コーパス」(＝青空)¹⁷およびBCCWJを利用し、1891年から1989年にかけての合計703例を抽出した。

以下、松村(1954)による近代語の五区分¹⁸のうち、「正確」が主に用いられ始めた明治後期以降に絞り、各用例の初出年代順に記述する。記述の順は表4の項目の順に沿う。

3.1 明治後期(1887～1911)

この時期の「正確に(は)」の用例は51例¹⁹ある。2節の現代語の考察に合わせる形で明治後期の用例を分類し、その結果を表5に示す。この時期の例のうち最も古いものは(42)に示す1891年の連用修飾の用例であり、187

¹⁶ 以下、用例出典の情報を次の順に記す：(コーパス：著(訳)者、原著者、年、題名)。文体がコーパスに明記される場合、出典の最後に記す。

¹⁷ 青空文庫における用例の年代については、作品の初出年がわかる場合は初出年を用例の年代とし、不明の場合は本の初版年とする。また、著者が初版の出版に先立って亡くなった場合、著者の没年とする。

¹⁸ 具体的な五区分は以下の通りである。

①明治前期〔形成期〕：明治初～十年代末(1868-1886)、②明治後期〔確立期〕：明治二十年代初～明治末(1887-1911)、③大正期〔完成期〕：大正初～関東大震災(1912-1923)、④昭和前期〔第一転成期〕：関東大震災後～終戦(1924-1945)、⑤昭和後期〔第二転成期〕：終戦後～現在(1946-)。本稿では⑤を「昭和中後期」という名称に改める。

¹⁹ 他にも1例あるが、この例の「正確に」は「正式に」を意味しているため、他の例とだいぶ異なるので、本稿の考察対象から除外する。

(ト) アルサスが国際公法上正確に佛國の領土となつたのは、今より二百六十九年前の事である。

(太陽：浮田和民 1917『欧州戦乱と民主政治の新傾向(第一)口語』

4年の連体形の例に約20年遅れて、動詞にかかる連用修飾の例が現れ始めると言える。(ただし、これは翻訳作品の例である。本稿で収集した「正確に(は)」の全3690例のうち、281例(約7%)は翻訳の例である)。

表5 明治後期の分布

		1891	93	94	95	99	1900	01	04	06	07	08	09	10	11	
正確に	動詞にかかる用法	47	1	1	1	7	1	1	9	1	1	3	1	12	4	4
	注釈用法	2				1		1								
	前置き用法	1												1		
	副詞成分にかかる用法	0														
正確には	節にかかる用法	0														
	言い直し用法	0														
	動詞にかかる用法	0														
	注釈用法	0														
合計	前置き用法	1						1								
	副詞成分にかかる用法	0														
	節にかかる用法	0														
	言い直し用法	0														
合計		51														

3.1.1 「正確に」

〈動詞にかかる用法〉

51例のうち47例が動詞にかかる用法である。後接表現をから見ると、当初は(42)(43)のような肯定形であったが、次第に(44)(45)のような「～できない」という不可能を表す形も現れる。さらに、動詞否定形の用例(46)も1例あった。

(42) ホームズは半身像の打ち砕かれた額を検べながら云った。「後頭部の中央に正確に的中り、脳を貫通しているよ。

(青空：アーサー・コナン ドイル著・三上於菟吉訳 1891『空家の冒険』)

(43) この廓内は通りが正確に基盤目をしながら、大抵の通りのその行き止りまで行くと、卒然としてあたりがつぼむやうに暗くなり…

(青空：木村荘八 1893『洲崎の印象』)

(44) 若し此觀念にして存せざれば、正確に法理も倫理も之を論究することが出来ぬと考へて居る位、重要な觀念である。

(太陽：中島力造 1901「人格の觀念を基礎とせる徳育法」口語)

(45) 夫れよりも遠く離れて居る先祖と後裔との比較の如きは到底正確に行ふ事は出来ないと云つて宜しい。

(太陽：坪井正五郎 1901「諸種族相互の系図的關係を考へ定める方法」『科学世界』口語)

(46) 余等は未だ正確にこれが利害を報告すべき時機に達せざれども、研究を目的とする読者はしばらく措き…

(青空：佐野友三郎 1907『公開書架 (Open-shelf-system) につきて』)

〈注釈節〉

この時期には注釈節の例も 2 例ある。

(47) 是等三個の面部左右兩端には前後に貫通する小孔各一個有り。面部上下の境界を基として正確に言へば是等は頭巾の左右兩端に穿ちたるもの如くなれど、大体の位置より考ふれば耳輪を垂るる孔を示した。

(青空：坪井正五郎 1895『コロボックル風俗考』)

(48) 「危機！」の暗号なのだ。その頃—。もっと正確に云えば、ガマンの針助が兵古帯のお加代と別れて、鴈治郎横丁から出て行つた頃—。

(青空：織田作之助 1900『夜光虫』)

〈前置き用法〉

前置き用法は 1 例である。「注釈用法」の初出例が 1895 年であるのに対し、「正確に」の「前置き用法」の初出例 (49) は 1909 年になって現れる。後接表現は動詞の否定形である。ただし、この例の出現よりも前に、後述する「正確には」の「前置き用法」の例 (50) があつた。

(49) 該剩餘金の數額は未だ正確に知ること能はざるも傳へらるゝ所に據れば純剩餘金額は二千萬圓以上三千万圓以下の間に在るものと見て…

(太陽：本多精一 1909「財政經濟近時」文語)

3.1.2 「正確には」

〈前置き用法〉

この時期においては「正確には」の例は 1 例のみである。いわゆる情態副詞の用法ではなく、前置きの用法であつた。後接表現は「知り難き」であり、肯定形でありながら否定的意味を表す。

(50) 昨年間に於ける獨逸國の自殺者は、正確には知り難きも、八千人以下なること莫し、而して自殺男女の割合は、女子一人と男子三人となり。

(太陽：1901「世界紀聞」文語) (= (5))

3.2 大正期 (1912~1923)

この時期の「正確に(は)」の用例は全 55 例である。用法別の例数を表 6 に示す。

表 6 大正期の分布

		1912	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	
正確に	動詞にかかる用法	40	3	1	5	7	2	6	1		1	3	3	8
	注釈用法	7						4		1		1	1	
	前置き用法	3			1			2						
	副詞成分にかかる用法	0												
	節にかかる用法	0												
正確には	動詞にかかる用法	2						1	1					
	注釈用法	0												
	前置き用法	3						3						
	副詞成分にかかる用法	0												
	節にかかる用法	0												
言い直し用法	0													
合計		55												

3.2.1 「正確に」

〈動詞にかかる用法〉

「動詞にかかる用法」の例は 40 例で、最も多い。後接表現を見ると、(51) (52) のような肯定形が後接するもののほか、(53) (54) のような意味的否定および不可能を表す否定形が後接する例もある。

(51) 今日中央鐵道政府といふやうなものがなくして、猶且つ誰でも一枚の切符で、安全に、正確に、新橋から倫敦まで旅行し得る事實を見てみながら
(青空：石川啄木 1912『A LETTER FROM PRISON』)

(52) それで、その場は無事に済んだが、あれほど正確に銚を下ろすつもりなら、肝心の時計が狂っていないようにあらかじめ直しておかなくてはならないはずなのに
(青空：夏目漱石 1912『彼岸過迄』)

(53) 支那の宦官が何時代からはじまったかは、正確に知ることが出来ぬ。されど周時代には、已に宮刑が五刑の一に加へられて居り、宦官も存在して居った。
(青空：桑原隲蔵 1913『支那の宦官』)

(54) また肝心の温度なるものがある度以上には正確に測れぬものである。
(青空：寺田寅彦 1915『方則について』)

〈注釈節〉

注釈節の例は 7 例ある。

(55) ・ ・ ・ 物の価格は需要供給の關係に依つて定まると云ふて居るのは、どう云ふ意味であるかと云ふに、其は一層正確に言ふならば、物の価格は其物の需要と供給とが相平均する點に定まると云ふべきである。

(太陽：河上肇 1917『小学読本に現はれたる経済事項(二)』口語)

(56) 僕は『不幸』と呼ばなければならないが、然し人の世には、どちらからも相讓ることの出来ない、もつと正確に云へば、相讓つてはならない場合がある。(太陽：里見弴 1917『失はれた原稿』口語)

(57) 扱て私の話の題目は正確に云へば『尋常小學讀本に現はれたる經濟學關係事項の解説』と云ふことである。

(太陽：河上肇 1917『小学読本に現はれたる経済事項(一)』口語)

(58) それは大正三年の五月二十一日の夜と申しても、正確に云えば、翌二十二日午前の四時頃でありました。(太陽：菊池寛 1919『ある抗議書』)

〈前置き用法〉

前置き用法の例は 3 例あり、いずれも否定形と共起している。

(59) その時の時計ほど埒の明かない遅いものはありませんでした。私の起きた時間は、正確に分らないのですけれども、もう夜明に間もなかった事だけは明らかです。

(青空：夏目漱石 1914『こころ』)

(60) 形勢であるから、今後日本が戦争を開始するに当りて、果して何れ程の鉄鋼材を要するのであるか、勿論正確に豫知することは出来ないけれども、這般の歐洲大戦乱の実験に徴すると蓋し思ひ半ばに過ぐるものがあると…

(太陽：大河内正敏 1917「鉄鋼材輸入禁止断行の急務」口語)

(61) この書翰（本居清造氏藏）は年代は正確に知ることは出来ぬが、宣長の入門後であるから、眞淵の晩年（六十八歳以後）のものである事は言ふ。

(太陽：佐々木信綱 1917「賀茂眞淵雑話」口語)

3.2.2 「正確には」

〈動詞にかかる用法〉

「正確には」が動詞にかかる例は 2 例見られ、いずれも否定形と共起している。

(62) B「本當に失敬した。僕の頭も手ももう正確には動いてくれないのだから。」

A「そんなことはない。君は自信がなくなつたのだ。」

(太陽：武者小路実篤 1917『AとB』口語) (= (6))

(63) リンデン「そんなにして今までにどのくらゐ借金しました。」ノラ「さうね、正確にはわかりませんわ。そんなことといふものは、はつきりさせておくことのむづかしいものですからね、私たゞ丹念に集めて來ただけの金を、すつかり拂つて來たことは知つてゐます。・・・」

(青空：島村抱月訳・ヘンリック・イブセン著 1918『人形の家』)

〈前置き用法〉

「正確には」の前置き用法は 3 例ある。いずれも否定形と共起する例である。

(64) 皇帝が退位の詔書に署名する爲め別の車室に引退がられたのは何時であつたか正確には分らないが、右手に二三枚の小さい紙片を持って出て來られたのは十一時十五分であつた。

(太陽：1917「露国ロマノフ皇家滅亡の刹那」口語)

(65) これが爲めに撃沈せられた船舶の噸數は秘密に附されて居るので正確には分らぬが、毎月三十万噸以上に上つて居ると推測することが出来る。

(太陽：今岡純一郎 1917「造船業の死活問題」口語)

(66) 無論、何十年か昔のことで、まだ小さい時分のことだから正確には覚えていませんが、かう「掟」といふ字が太く書いてあるのをうろおぼえに知つてゐます。

(太陽：白石実三 1917「秋の武蔵野」口語)

3.3 昭和前期 (1924~1945)

この時期の「正確に(は)」の用例は全 519 例ある。具体的な調査の結果を表 7 に示す。収集された用例の数が増えるにつれて、「正確に」の「副詞成分にかかる用法」や「節にかかる用法」も見られるようになった。

表 7 昭和前期の分布

		1924	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	
正確に	動詞にかかる用法	336	3	21	8	24	8	15	14	14	15	16	31	18	26	16	12	11	26	12	13	14	4	15
	注釈用法	98	1	6	1	1		4	5	6	6	7	9	8	12	7	3	2	4	2	4	3	1	6
	前置き用法	5										1				2	1					1		
	副詞成分にかかる用法	22				1	1	2	1	3		1	5		2	2		1				1	1	1
	節にかかる用法	14				2		1	1	1			2	1		3				2		1		
言い直し用法	2													1						1				
正確には	動詞にかかる用法	6		1		1		1					1	1							1			
	注釈用法	0																						
	前置き用法	13	1		2			3				1	2				2			2				
	副詞成分にかかる用法	0																						
	節にかかる用法	12			2					1			1	2	2		1					2	1	
言い直し用法	11			1	1	1	1	1				2		1	1			1	1			1		
合計	519																							

3.3.1 「正確に」

〈動詞にかかる用法〉

「正確に」が動詞にかかる例は 336 例あり、最も多い。後接表現を見ると、(67) のような肯定形が後接するもののほか、(68) (69) のように意味的否定および不可能を表す否定形が後接する例もある。

(67) それ故吾々はかかる外的関係を直接に認識することは出来ない。ただ出来るだけ正確に認識し得るというに過ぎない。

(青空：戸坂潤 1924『カントと現代の科学』)

(68) もっともニッケルの時計の蓋は正確に顔を映すはずはない。小さい円の中の彼の顔は全体に頗る朦朧とした上、鼻ばかり非常にひろがっている。
(青空：芥川竜之介 1924『十円札』)

(69) 僕はなぜか朱舜水と云う言葉を正確に発音出来なかつた。それは日本語だっただけにちょっと僕を不安にした。
(青空：芥川龍之介 1927『河童』)

〈注釈節〉

「注釈節」の例は 98 例ある。

(70) もちろんそんな事はないのであるから、この改革は日本人の心配性をあらかず一例と見る事が出来る。更に正確にいえば、ドイツ模倣の一年志願兵制度が日本社会の実情に合しない結果であったのである。
(青空：石原莞爾 1929『戦争史大観』)

(71) 因果、又は因縁という言葉は、正確に言いますと、因・縁・果、という事で、この世の中のあらゆるものの存在の相の説明であります。
(青空：岡本かの子 1934『仏教人生読本』)

(72) こゝで戯曲と舞台、劇作家と演出者とを引離して考へるのは変であるが、正確に云へば、別々に論ぜらるべきであらうと思ひます。
(青空：岸田国土 1924『演劇一般講話』)

(73) た貴金属盗賊団を俊夫君の探偵力によって見事に一網打尽にした事件です。十月のある真夜中のことです。正確に言えば午前二時頃ですから、むしろ早い朝といった方がよいかもかもしれません。
(青空：小酒井不木 1925『暗夜の格闘』)

〈前置き〉

前置きの例は 5 例ある。

(74) ひとつは、日本の緯度だとおもふ。地球儀を見ないでは正確にいへないが、北緯三十七、八度から十度あたりへかけて、斜めに位置した細長い土壌の宿命だといひたい。
(青空：吉川英治 1942『折々の記』)

この時期になると、「動詞にかかる用法」のほかに「副詞にかかる用法」と「節にかかる用法」も現れる。

〈副詞にかかる用法〉

22 例ある。

(75) だから、七--古くは八処女の八も--が、正確に七の数詞と定まるまでには、不定多数を言い、次には、多数詞と序数詞との二用語例を生じ…
(青空：折口信夫 1927『水の女』)

〈節にかかる用法〉

14 例ある。

(76) 産湯と云つて来たが、古代は水をもつて湯とも称してゐる。誕生の 76 正確に湯にとりあげたのは何時の頃よりか知られてゐない。
(青空：折口信夫 1927『貴種誕生と産湯の信仰と』)

〈言い直し〉

「正確に」にも「言い直し用法」が 2 例見られる。後述する昭和後期にも稀にこのような例が見られるが、ごく少数である。

(77) まず机の引き出しを整理し、さいころが出て来たので、二、三度、いや、正確に三度、机のうでどころがして見て、それから、片方に白いふさふさの羽毛を附したる竹製の耳搔きを見つけて・・・

(青空：太宰治 1936『虚構の春』)

(78) 戦争は、合戦も出費もなしに宙にさまよっている。本当は、戦争ならざる戦争なのだった。--正確に、彼女の好みにもっとも叶う戦争だった。
(青空：片岡鉄兵訳・リットン・ストレイチー 1941『エリザベスとエセックス』)

3.3.2 「正確には」

〈動詞にかかる用法〉

「正確には」が動詞にかかる例は 6 例あり、いずれも否定形と共起する例である。

(79) しかも、その間には一つも人家はないのです。幸ひ食物は三四日分持つて来てゐますが、方角も正確には判らぬこの山の中を、磁石一つをた

よりに單身歩かねばならぬと考へた時、私はそこへへたばつてしまった。
(太陽：延原謙 1925『ラヂオと犯罪』口語)

- (80) 御誕生後、後代の日嗣御子がお定まりになつて、其中から次の代の主上がお定まりになつたのである。出現せられた貴種の御子の中、聖なる素質のある方が、数人日つぎのみ子と称へられた。此は正確には皇太子に当らぬ。
(青空：折口信夫 1927『貴種誕生と産湯の信仰と』)

〈前置き〉

13 例ある。前置き表現は自分の主張を控えめにする役割を果たし、基本的に常に否定表現と共起する。ゆえに、前置き用法では否定形との親和性が高い「正確には」のほうが「正確に」より多く用いられる。

- (81) 箱には錠がおろしてあつて、それがもう錆ついているのを叩きこわしてみると、箱の底には一封の書き物と女の黒髪とが秘めてあつた。その書き物の文字はいちいち正確には記憶していないが、大体こんなことが書いてあつたのだ。
(青空：岡本綺堂 1924『月の夜がたり』)

上で見た「正確に」を含む注釈節（「正確に言えば」等）の全体と入れ替えることのできるタイプの「正確には」もこの時期から現れ始める。

〈節にかかる用法〉

12 例ある。

- (82) マルクス主義はそれ自身多岐多様なる意味において語られる唯物論の長い歴史の列に属している。人々はこれに特に近代的唯物論の名を負わせている。このとき冠せられた近代的とは正確には何をいうのであるか。マルクス主義はそのいかなる構成の故に、そもそも唯物論として自己を規定するのであろうか。

(青空：三木清 1927 マルクス主義と唯物論)

- (83) しかし、この殺害が日曜日の朝の九時から夜の十二時十五分前までのあいだのどの時刻に起つたとしても、それでも『真夜中にならぬ前に死体を河のなかへ投げこむ』暇はあつたろう。そこで、この仮定は正確にはこうなる、一殺害は決して日曜日に行われたのではなかつた一と。

(青空：佐々木直次郎訳・エドガー・アランポー著 1943『マリー・ロジェエの怪事件』)

〈言い直し〉

11 例ある。

- (84) ところが、彼は、ブルジョアが、彼と自分とを区別してるとすっかり同じように、彼とセーラーらとを区別していた。「おれは紳士だが、やつらは労働者だ」あるいはもっと正確には「おれは人間だが、やつらはセーラーだ」と。(青空：葉山嘉樹 1926『海に生きる人々』)
- (85) その後本隊の決戦が行われることになる。そこで敵になったのは所謂四十七士で(尤も正確には四十七人はいなかった)、問題の中心人物野上豊一郎氏を始めとして…(青空：戸坂潤 1933『社会時評』)

以上のように、昭和前期には現代語に見られる「正確に」および「正確には」の諸用法が全て現れた。

3.4 昭和中後期(1946～現在)

この時期の「正確に(は)」の用例は3110例ある。調査の結果を次ページの表8に示す。使用量の増加にしたがって、「正確には」の用法が徐々に安定し、「正確に」との棲み分けも見えてきた。特に注目したいのは、次の二点である。一つは、遅れて出現した「正確には」が「正確に」の使用数を上回ることである。これは、「正確に」を含む注釈節と言い直しを示す「正確には」が、ほぼ同じ機能を持つため、より簡略な形式を持つ「正確には」が好まれるためであると考えられる。もう一つは、「前置き用法」には、基本的に「正確には」のみが用いられるようになることである。

表 8 昭和中後期の分布

		1946	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	64	68	69	73	75	76	77	78	79	80	
正確に	動詞にかかる用法	309	9	15	66	14	10	27	6	9	3	21	11	5	3	3	10	15	10	10	5	12	4		9	10	8	4	10
	注釈用法	41	2	5	3	4	2		1	2		1	2				11	2		1	1	2					2		
	前置き用法	2	1		1																								
	副詞成分にかかる用法	69			62	1			1			1			1					1		1	1						
	節にかかる用法	12		2	7	1												1				1							
正確には	言い直し用法	2				1													1										
	動詞にかかる用法	11		1	2		1	1					1		1	1						1	2						
	注釈用法	0																											
	前置き用法	3	1		1																		1						
	副詞成分にかかる用法	0																											
合計	節にかかる用法	10					3		1						1							2				2		1	
	言い直し用法	13						1											2		1	1			1	6		1	
	合計	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	2000	01	02	03	04	05	06	08	
	動詞にかかる用法	1595	21	3	11	9	15	14	33	24	19	24	31	19	32	42	38	34	39	40	43	33	164	174	185	182	265	21	80
	注釈用法	311	8	2		1	9	2	4	1	1	15	7	5	8	8	9	6	14	11	5	5	24	29	32	27	52		26
正確に	前置き用法	0																											
	副詞成分にかかる用法	51	1	1			1	1		1		3	1		1	1	3	2		1	2	1	5	8	4	5	5	1	3
	節にかかる用法	21				2	2	1	1	2							3					1	1	1		1	2	2	2
	言い直し用法	1															1												
	正確には	動詞にかかる用法	60				1	2	2	1	2	4	2	1			1	2	1	2	1			6	3	5	10	11	2
注釈用法		0																											
前置き用法		49	1			2	1			2		1	3	4	1	1		2		4	2	3	3	3	4	11		1	
副詞成分にかかる用法		0																											
節にかかる用法		98					6	2						1	2	3	3	3		5	1	1	2	12	8	10	10	23	6
言い直し用法	452	4		3	2	7	4	6	11	1	10	5	6	6	1	9	13	7	13	4	4	27	40	50	50	99	3	67	
合計	3110																												

3.5 まとめ

以上の調査から得られた、「正確に」および「正確には」の諸用法の初出年を右の表 9 に示す。

また、これらの用法の発生の順序を形式と機能の二つの観点から整理して、次ページの図 1 に示す。

初出年	表9 各用法の初出年		用例番号
1891	正確に	動詞にかかる用法	(42)
1895	正確に	注釈用法	(47)
1901	正確には	前置き用法	(50)
1909	正確に	前置き用法	(49)
1917	正確には	動詞にかかる用法	(62)
1926	正確には	言い直し用法	(84)
1927	正確には	節にかかる用法	(82)
1927	正確に	副詞成分にかかる用法	(75)
1927	正確に	節にかかる用法	(76)
1936	正確に	言い直し用法	(77)

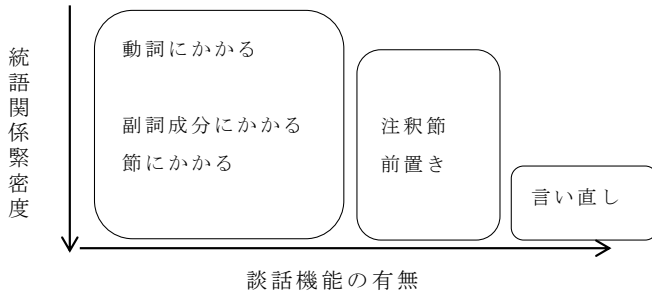


図1 用法拡張

まず、形式の観点から考えると、19世紀末に「正確」という語が現れ、まず連体形「正確なる」の用法が、そして動詞にかかる連用修飾用法が現れた。そして、昭和前期にはその修飾先が動詞から、副詞や節にまで拡張した。この拡張は「正確」という語が、用例数が増えるにつれて、徐々に副詞としての用法へと拡張したことを意味する、統語レベルの変化である。

一方、機能の観点から考えると、一文の中に用いる情態副詞から、二文間に用いる接続詞的換言表現への使用環境の拡張が見られる。「正確に(は)」の用例には、動詞や副詞、節のような特定の語句にかかる用法のほかにも、「注釈用法」「前置き用法」および「言い直し用法」といった機能も見られる。これらはいずれも伝達機能を持つ表現であり、談話レベルで働きを持っている。特に「正確には」は、現れた時から情態副詞の用法ではなく、「前置き用法」である。

4 用法拡張の要因について

以上、「正確には」という表現の史的展開について見てきた。ではなぜこのような変化が起こったのだろうか。その動機の追求はあまりにも大きな問題であるが、以上の調査から、用法拡張の要因について、少なくとも、①否定形式との共起、②注釈表現および前置き表現との関連、③言語の経済性、という三点が関わると思われる。

まず、否定形式との共起について、初期の「正確に(は)」の後接表現は肯定形(39)(40)等)であるが、その後、可能表現の否定形(44)(45)等)および意味的否定(50)等)とも共起するようになった。否定形式

と共に起る場合、否定と親和性の高い助詞「は」をつけた「正確には」の形式が多く使われるようになる。後に、常に否定形を伴う「前置き」表現が、「正確には」独自の用法として現れるようになった。また、意味の観点から考えると、「正確に～する」ことは望ましい事態であり、わざと「正確に～しない」ことは特殊な状況でしかありえない事態であるが、「正確にしたいができない」事態はいくらでもあるため、「正確には」の形式が多く使われるようになったものと考えられる。

次に、「正確に」を含む注釈節とほぼ同様の機能を持つ「正確には」の定着について、いわゆる言語の経済性という要因の影響が考えられる。生成文法の提唱者であるチョムスキーは 1980 年代の終わりから、言語を計算とみなすべきだという趣旨の極小主義プログラム（ミニマリスト・プログラム）を提唱し、言語の経済性（economy）という概念を指摘した。言語はなるべく単純な形になろうとする原理があるということである。この原理に従って考えると、ほぼ同じ機能を持つ「正確に」を含む注釈節と言い直しの「正確には」では、より簡略な形である「正確には」へと使用が偏るのが最も自然な流れである。

さらに、注釈表現および前置き表現との関連も関わると考える。本稿の考察対象である「正確には」の用法拡張を、前置き表現及び注釈表現そのものの発達の流れの中に位置づけることができると思われる。

5 終わりに

本稿では、現代語における「正確には」が「正確に」にはない談話レベルの多様な用法を持つという事実に注目し、コーパス調査に基づいてこの表現の成立および発展の経緯を考察した。その結果を以下のようにまとめる。

- i 「正確に」は 19 世紀末に、情態副詞としての用法と注釈節の一部としての用法が同時に現れた。昭和前期になると、副詞や節にかかるような、統語レベルの用法拡張が見られた。一方、「正確には」は 20 世紀初頭に現れ、主に昭和期以降から多く用いられ始めた。「正確には」の初例は「前置き用法」の例であり、また、「正確には」の機能は注釈節に相当する。さらに、昭和期に入ると、「言い直し用法」が現れ、これが現代語においては「正確には」の中心的用法として盛んに使われている。

- ii 「正確には」の発生及び展開（用法拡張）について、否定形式との共起、および言語の経済性、注釈表現および前置き表現との関連、の三点が関わっていると推察した。

また、注 1 で触れたように、「正確には」と並行的な「二字漢語+には」形式、および類似する用法拡張の経路を持つと思われる表現に「極端には」「厳密には」「単純には」がある。これらの形式の用法拡張については今後の課題にしたい。

参考文献

- 市村太郎（2014）「副詞「ほんに」をめぐって--「ほん」とその周辺--」『日本語の研究』10-2, pp.1-16
- 江村祐文（2001）「日本語における「注釈表現」あるいは「メタ言語行動表現」」『異文化』2, 法政大学国際文化学部企画広報委員会, pp.252-269
- 大塚容子（1999）「テレビ討論における前置き表現--「ポライトネス」の観点から--」『岐阜聖徳学園大学紀要. 教育学部外国語学部』37, pp.117-131
- 亀田千里（1997）「いわゆる「注釈」を表す従属節について--「率直に言うが」と「率直に言えば」--」『筑波応用言語学研究』4, pp.97-109
- （2000）「条件形式による注釈節について--実例調査をもとに--」『筑波応用言語学研究』7, pp.1-12
- （2003）「条件形式による注釈節の性格について--「～言えば」の分析を中心に--」『日本語と日本文学』37, pp.1-12、筑波大学国語国文学会
- 川瀬卓（2014）「近世における副詞「どうも」の展開」青木博史・高山善行・小柳智一編『日本語文法史研究 2』, pp.131-151、ひつじ書房
- （2015）「副詞「どうぞ」の史的変遷--副詞からみた配慮表現の歴史, 行為指示表現の歴史--」『日本語の研究』11-2, pp.16-32
- 才田いずみ・小松紀子・小出慶一（1984）「表現としての注釈--その機能と位置づけ--」『日本語教育』52, pp. 19-31
- 阪倉篤義（1975）「「開いた表現」から「閉じた表現」へ--国語史のありかた試論」『国語と国文学』47-10, pp.22-35 [阪倉篤義『文章と表現』（角川書店 1975）所収]
- 杉戸清樹（1983）「待遇表現としての言語行動：注釈という視点」『日本語学』2-7, pp. 32-42
- （1989）「言語行動についてのきまりことば」『日本語学』8-2, pp.4-14
- （1994）「お礼に何を申しましょう」『日本語学』13-8, pp.55-62

- (1996) 「メタ言語行動の視野」『日本語学』15-10, pp.19-27
- 高山善行 (2014) 「配慮表現の歴史的变化」野田尚史・高山善行・小林隆編『日本語の配慮表現の多様性』, pp.21-35, くろしお出版
- 陳臻渝 (2007) 「日本語会話における前置き表現」『言語文化学研究 言語情報編』2, pp.99-115
- 戸澤裕子 (2015) 「発話に対する注釈表現」『金城学院大学論集 人文科学編』11-2, p.77-86
- 永澤済 (2007) 「様態副詞から文副詞へ--日本語の副詞「明らかに」の歴史的变化を追って」山梨正明・辻幸夫・西村義樹・坪井栄一郎編『認知言語学論考 Vol.7』, pp.97-115, ひつじ書房
- 鳴海伸一 (2015) 『日本語における漢語の変容の研究 副詞化を中心に』ひつじ書房
- 松村明 (1954) 「東京語の成立と発展--現代の国語--」『解釈と鑑賞』19-10 (松村 1998 所収)
- (1998) 『増補 江戸語東京語の研究』東京堂出版
- 山田孝雄 (1908) 『日本文法論』宝文館

(きん えんげん 大学院人文社会系研究科 博士課程3年)